

文化人の本音 河合隼雄文化庁長官対談

第3回 ゲスト 松岡和子 さん ●翻訳家

耳を澄まして	4
長官コラム 文化庁の抜穴	9

特集 全国発掘調査最新情報

提言

埋蔵文化財行政総論

..... 藤本 強 ・ 10

対談

発掘された日本列島 2002と遺跡発掘の最新成果

..... 大塚初重 ・ 荻谷俊介 ・ 12

有識者提言

埋蔵文化財行政と考古学研究	広瀬和雄 ・ 18
---------------------	-----------

市民にとっての遺跡、そして考古学	佐古和枝 ・ 20
------------------------	-----------

ことばの探検③

気になる言葉	山口仲美 ・ 22
--------------	-----------

インタビュー 未来の扉③

橋口亮輔さん(映画監督)	23
--------------------	----

いきいきミュージアム 美術館・博物館事業レポート③

参加体験型ワークショップ「こんにちは美術館」 岡山県立美術館	26
---	----

舞台の現場から 舞台を支える人たち③

新国立劇場	伊藤久幸 ・ 27
-------------	-----------

子どもたちから見た伝統的建造物群保存地区

角館町角館(秋田県仙北郡角館町)	28
------------------------	----

吉良川町(高知県室戸市吉良川町)	29
------------------------	----

日本の伝統美と技を守る人々 選定保存技術保持者編15

高田三男さん(衣装建具製作)	30
----------------------	----

在外研修だより 新進芸術家在外研修報告③

..... 砂川幸子 ・ 森永明日夏 ・ 31

文化ボランティア通信

「文化ボランティア通信」第三号の概要(前編)	32
------------------------------	----

文化庁ニュース

文化財の新指定

(美術工芸品関係-1)	34
-------------------	----

平成14年春の叙勲・褒章受章者

.....	40
-------	----

東京国立博物館

こどもミュージアム

屋根の上のガードマン:おにがわら

.....	41
-------	----

京都国立博物館

特別陳列 新収品展 42 |特別陳列 大將軍八神社の神像 42 |

国立西洋美術館

大英博物館所蔵フランス素描展

フォンテーヌブローからヴェルサイユまで

.....	43
-------	----

東京国立近代美術館

所蔵作品展

モチーフでたどる工芸の名作 44 |

イベント案内

新国立劇場スポットライト	45
--------------------	----

7月の国立劇場	46
---------------	----

芸術文化振興基金ニュース	47
--------------------	----

題字デザイン 桑山弥三郎

今月の
表紙

特別史跡キトラ古墳南壁の壁画

「朱雀(すざく)」

独立行政法人奈良文化財研究所

耳を澄まして

撮影／島峰 譲



いう劇場が、経済的な理由で八月に休館することです。シェイクスピアの劇場をモデルにしたもので、一九八八年に開場して以来、世界各国のシェイクスピア作品がここの一箇所で見られましたし、「子どものためのシェイクスピア」というシリーズを毎年夏に上演してきました。これは、子どもにも分かりやすく話が伝わるように構成・演出され、大人の鑑賞にも耐える質の高いものです。

イギリスの劇団でツアー用のプログラムを組むと、大体東京グロブ座をアクセスポイントとして、「買わないか」という話を持ってきたので、いわば文化交流の一つの拠点でもありました。それがなくなるのは大きな問題です。

その一方、すごくいいなと思うのは、最近、公共の幾つかの劇場が、とても意欲的に自主企画をしていることです。演劇公演だけでなく、地域の人や学生、子どもを対象としたワークショップなどもやっていて、将来、日本の演劇や音楽にとってもいい状況が生まれるような気がします。

いい活動をしているところは、例外なくいい

文化芸術は人が大切

河合 松岡さんは、シェイクスピアの翻訳をたくさんしておられるし、評論もいろいろお書きになられています。まず、文学や芸術全般

的なことで、お考えをお聞かせ下さい。
松岡 最近、とてもうれしいと思う状況と、何とかならないかとハラハラしていることがあるんです。
後者は、新大久保にある東京グロブ座と

「人」がいるんですよ。やっぱり箱だけじゃダメですね。

河合 絶対そうですね。

松岡 私が関わったかぎりでも、彩の国さいたま芸術劇場のように館長が長期的なビジョンを持っているところがあるし、新潟市立文化芸術会館のように支配人からスタッフまでが拘子定規でなく、小回りのきく態度を持っている。芝居が好きだったり、お客さんの反応がい

り、いい流れを作っています。
河合 ボランティアの人も多いですか。
松岡 新潟市立文化芸術会館では、東京から劇団を呼んで公演をしますと、演劇好きの学生さんたちがボランティアで裏のお手伝いなどをしてるんです。

河合 そうなのがいいんですよ。

松岡 そこでは、東京でプロの制作会社をやっている方が顧問というか、アドバイザー・プロデューサーをしておられて、館とその方との関係がとてもいい。開館時の体制が非常に良かったと思います。その方は、館に自分がいなくてもやっていけることを目標にしています。

最近では、「演劇基礎講座」を館のスタッフが立案・実行なされ、私が聞き手になって、演出家や俳優さんなどに公開のインタビューをしています。この間は宝塚出身の麻美れいさんと対談をしました。蜷川幸雄さん演出の『オイディプス王』を新潟で上演するので、その前に予備知識やどういう楽しみ方があるかを紹介する、イオカステをなざる麻美さんを紹介する、といった目的で。

河合 劇団が公演を行うだけでなく、その地域の人がいろいろ関心を持つとか、レベルも上がるとか、そういう生きた講座は非常に大事だと思います。

松岡 もう一つは、高知県立美術館。そのホールでいま伸び盛りのマイムの集団が公演したとき、終演後のトークで司会をするために行ってきました。そこも館長さんがすごく意欲的で、世界の最先端のアーティストを招聘してきたことを知ってびっくりしました。

美術館ですと、公共でも、私立でも、開館と同時に学芸員が配置されますね。劇場やホールでも同じ姿勢でのぞむべきだと思います。

オープンと同時に「人」とセツトで動き出せば、ただ箱物ができて、ソフトが追いつかないという、地方の公共ホールの問題点もなくなるのではないのでしょうか。

文化芸術と福祉

河合 そうそう。しかし、違う言い方をすると、箱があるのはやっぱり大したことですから、それをうんと使うことを考えなければ。

松岡 「箱が大事」で麻美れいさんからうかがった話を思い出しました。高槻市の老人ホームで麻美さんの宝塚時代の先生が亡くなり、その整理のためにいらした時、たまたまホールに皆さんが集ってお誕生会をしていた。せっかくだからと頼まれた麻美さんは「すみれの花咲くころ」を歌ったそうです。

その中に、入所して以来心を閉ざし、人前



まつおか・かずこ
翻訳家・演劇評論家
旧満州新京(長春)生まれ。
東京女子大学英米文学科卒業。
東京大学大学院修士課程修了。
専攻は17世紀イギリス演劇。
発足当初の現代演劇協会(付属劇団雲)文芸部
研究生、『罪と罰』(演出・
福田恒存)『黄金の国』(演出・
芥川比呂志)の公演には演出
助手として参加。1982年東京
医科歯科大学(教養部)助教授。
1986年から教授。1997年
シェイクスピア戯曲の翻訳に
専念するため同大を退官。

河合 「うるさい」と「うっせー」
文化審議会の国語分科会でまたお願い

松岡 今度文化庁化された本では、冒頭の基調講演で河合さんは、谷川俊太郎さんの「みみをすすまう」という詩を引用していらつしやいますね。私、それを読んだときに、へあ、もしかしたら、翻訳者としての姿勢もやつぱり「耳を澄ます」かなって思つたんです。原文を読んだときは、へこの人物はどうしてここでこういう言葉を使うんだらう、どうしてシェイクスピアはこう言わせるんだらうって耳を澄ます。同時に、へ上演された四〇〇年前のロンドンのお客さんは、この言葉をどう受け取ったのかしらって。それに耳を澄まして、へあ、こゝうかな」というのをつかんで、ワープロに打ち込むというか。何かそういう作業という気がしています。

河合 文化審議会の国語分科会でまたお願い

松岡 そうですね。最近のは汚いと思ひ込んで、そう簡単に言えない。松岡 そうなんです。シェイクスピアを訳すとき私自身に課していることですが、きれいな言い回しだけでなく、いわゆる汚い言葉も含めて表現のバラエティをたくさん持つて臨みたいと思つています。河合 ほんとですね。微妙なところが言語的に表現できるということですね。松岡 今度文化庁化された本では、冒頭の基調講演で河合さんは、谷川俊太郎さんの「みみをすすまう」という詩を引用していらつしやいますね。私、それを読んだときに、へあ、もしかしたら、翻訳者としての姿勢もやつぱり「耳を澄ます」かなって思つたんです。原文を読んだときは、へこの人物はどうしてここでこういう言葉を使うんだらう、どうしてシェイクスピアはこう言わせるんだらうって耳を澄ます。同時に、へ上演された四〇〇年前のロンドンのお客さんは、この言葉をどう受け取ったのかしらって。それに耳を澄まして、へあ、こゝうかな」というのをつかんで、ワープロに打ち込むというか。何かそういう作業という気がしています。

河合 文化審議会の国語分科会でまたお願い

松岡 そうですね。最近のは汚いと思ひ込んで、そう簡単に言えない。松岡 そうなんです。シェイクスピアを訳すとき私自身に課していることですが、きれいな言い回しだけでなく、いわゆる汚い言葉も含めて表現のバラエティをたくさん持つて臨みたいと思つています。河合 ほんとですね。微妙なところが言語的に表現できるということですね。松岡 今度文化庁化された本では、冒頭の基調講演で河合さんは、谷川俊太郎さんの「みみをすすまう」という詩を引用していらつしやいますね。私、それを読んだときに、へあ、もしかしたら、翻訳者としての姿勢もやつぱり「耳を澄ます」かなって思つたんです。原文を読んだときは、へこの人物はどうしてここでこういう言葉を使うんだらう、どうしてシェイクスピアはこう言わせるんだらうって耳を澄ます。同時に、へ上演された四〇〇年前のロンドンのお客さんは、この言葉をどう受け取ったのかしらって。それに耳を澄まして、へあ、こゝうかな」というのをつかんで、ワープロに打ち込むというか。何かそういう作業という気がしています。

松岡 人の心をほぐすためには、こういう方法もある。河合さんが心理療法家としてやっていたらしたと、文化庁長官としてのお仕事は開かないです。

河合 それはね、ほんとの福祉なんです。「福祉」は、「幸福」ということで、みんな、すぐ物のことを考えたんですね。今、物があつて、そんな幸福になつてないんだから、心をするのが福祉だから。福祉ボランティアも、文化ボランティアも完全につながつていて、ほとんど変わりがないくらいだと思つてゐるんです。その方に幾らお金あげても、食べ物あげても目は開かないです。

松岡 文化と福祉は一種敵対関係にあつて、高いお金をかけて芝居一本やるなら、そのお金は福祉に出す方がいいという向きもあります。福祉があつて、箱ができて、その先は文化・芸術が引き受けるということが大事だと思つて思ひました。

河合 すいすいですね。まさに芸の力やね。松岡 確かに箱はなくてはいけません。でも、心を開いて目をあけるところまでいくのは……。河合 これは人ですよ。

松岡 そうですね。最近のは汚いと思ひ込んで、そう簡単に言えない。松岡 そうなんです。シェイクスピアを訳すとき私自身に課していることですが、きれいな言い回しだけでなく、いわゆる汚い言葉も含めて表現のバラエティをたくさん持つて臨みたいと思つています。河合 ほんとですね。微妙なところが言語的に表現できるということですね。松岡 今度文化庁化された本では、冒頭の基調講演で河合さんは、谷川俊太郎さんの「みみをすすまう」という詩を引用していらつしやいますね。私、それを読んだときに、へあ、もしかしたら、翻訳者としての姿勢もやつぱり「耳を澄ます」かなって思つたんです。原文を読んだときは、へこの人物はどうしてここでこういう言葉を使うんだらう、どうしてシェイクスピアはこう言わせるんだらうって耳を澄ます。同時に、へ上演された四〇〇年前のロンドンのお客さんは、この言葉をどう受け取ったのかしらって。それに耳を澄まして、へあ、こゝうかな」というのをつかんで、ワープロに打ち込むというか。何かそういう作業という気がしています。

河合 翻訳しておられると、日本語についていろいろ考えられるでしょう。松岡 一つひとついい仕事をしたいと努めているわけですけど、副産物とし、おもしろいことに気がついたので。坪内逍遙の時代から私の時代まで、シェイクスピアの翻訳に携わった方の数は、五、六〇人と言われていますが、シェイクスピアの翻訳を定點として、日本語の変化が見られるんですよ。以前、文化庁の国語審議会の小委員会でも、委員それぞれが自分の仕事と日本語の問題とを絡めてレポートしたことがあります。私には「シェイクスピアの翻訳と日本語」というテーマが与えられ、単純に「一つの部分のフレーズなり」「せりふ」がどう訳されてきたかを見てみよう」と「ロミオとジュリエット」のバルコニーのシーンを取り上げました。そうしたら、時代が下るにつれて敬語が簡略化されていることが分かつたんです。

河合 全部つながるんですね。河合 ほんとにそうです。シェイクスピアの訳にみる日本語の変化

松岡 そうですね。最近のは汚いと思ひ込んで、そう簡単に言えない。松岡 そうなんです。シェイクスピアを訳すとき私自身に課していることですが、きれいな言い回しだけでなく、いわゆる汚い言葉も含めて表現のバラエティをたくさん持つて臨みたいと思つています。河合 ほんとですね。微妙なところが言語的に表現できるということですね。松岡 今度文化庁化された本では、冒頭の基調講演で河合さんは、谷川俊太郎さんの「みみをすすまう」という詩を引用していらつしやいますね。私、それを読んだときに、へあ、もしかしたら、翻訳者としての姿勢もやつぱり「耳を澄ます」かなって思つたんです。原文を読んだときは、へこの人物はどうしてここでこういう言葉を使うんだらう、どうしてシェイクスピアはこう言わせるんだらうって耳を澄ます。同時に、へ上演された四〇〇年前のロンドンのお客さんは、この言葉をどう受け取ったのかしらって。それに耳を澄まして、へあ、こゝうかな」というのをつかんで、ワープロに打ち込むというか。何かそういう作業という気がしています。

河合 全部つながるんですね。河合 ほんとにそうです。シェイクスピアの訳にみる日本語の変化

松岡 そうですね。最近のは汚いと思ひ込んで、そう簡単に言えない。松岡 そうなんです。シェイクスピアを訳すとき私自身に課していることですが、きれいな言い回しだけでなく、いわゆる汚い言葉も含めて表現のバラエティをたくさん持つて臨みたいと思つています。河合 ほんとですね。微妙なところが言語的に表現できるということですね。松岡 今度文化庁化された本では、冒頭の基調講演で河合さんは、谷川俊太郎さんの「みみをすすまう」という詩を引用していらつしやいますね。私、それを読んだときに、へあ、もしかしたら、翻訳者としての姿勢もやつぱり「耳を澄ます」かなって思つたんです。原文を読んだときは、へこの人物はどうしてここでこういう言葉を使うんだらう、どうしてシェイクスピアはこう言わせるんだらうって耳を澄ます。同時に、へ上演された四〇〇年前のロンドンのお客さんは、この言葉をどう受け取ったのかしらって。それに耳を澄まして、へあ、こゝうかな」というのをつかんで、ワープロに打ち込むというか。何かそういう作業という気がしています。

河合 全部つながるんですね。河合 ほんとにそうです。シェイクスピアの訳にみる日本語の変化

松岡 そうですね。最近のは汚いと思ひ込んで、そう簡単に言えない。松岡 そうなんです。シェイクスピアを訳すとき私自身に課していることですが、きれいな言い回しだけでなく、いわゆる汚い言葉も含めて表現のバラエティをたくさん持つて臨みたいと思つています。河合 ほんとですね。微妙なところが言語的に表現できるということですね。松岡 今度文化庁化された本では、冒頭の基調講演で河合さんは、谷川俊太郎さんの「みみをすすまう」という詩を引用していらつしやいますね。私、それを読んだときに、へあ、もしかしたら、翻訳者としての姿勢もやつぱり「耳を澄ます」かなって思つたんです。原文を読んだときは、へこの人物はどうしてここでこういう言葉を使うんだらう、どうしてシェイクスピアはこう言わせるんだらうって耳を澄ます。同時に、へ上演された四〇〇年前のロンドンのお客さんは、この言葉をどう受け取ったのかしらって。それに耳を澄まして、へあ、こゝうかな」というのをつかんで、ワープロに打ち込むというか。何かそういう作業という気がしています。



使おうかというね。うまいこと使ったときのうれしかったことね。

松岡 娘が、「段飾りのおひな様が欲しいな。三人官女とか、五人囃子とか、二人羽織とか」って言った(笑)。それはたまたま間違っちゃったんだけど、言葉遊びとしてもおもしろいし、忘れられずにいるんです。

そうそう、あるとき私が違う色の口紅を二度塗りしてたんですよ、それを見ていた娘が「お母さん、どうして二度も紅さすの」って聞いたんです。小学校四年のとき。私、びっくりしちゃって、どうして「紅さす」なんて言葉知ってるのって訊きましたら、マンガを見てくれて。高野文子さんという方のマンガで「紅さす」という言葉に出会って、「いつか使いたい」と思ってたらしい。それ以来、私もそのマンガにはまった(笑)。

私自身も「一緒しましょう」という言葉の子ども心に小耳にはさんで、「ハカッコいい」と思い、へどつかで使ってたやろう。いつ使ってたやろうかと思って、小学校高学年だったと思うんですけど、へいまだっつんという時に母のお友達に「私も」一緒に使ってます。そしたら、それこそ大人たちがのけぞりましてね(笑)。

河合 高等学校で芸術の時間の選択肢の一つに、演劇はあるべきと僕は思います。

松岡さんのお話を聞いても、単にシエイクうことによって、いろんなことができますね。

言葉の植林

松岡 戯曲の翻訳ですず心がけなくてはならないのは、耳で聞いただけで分かる言葉を選ぶことです。でも、いまそういう意味で使える言葉がどんどん減ってきている。私の頭の中にあるイメージは、酸性雨にやられた言葉の熱帯雨林。あたり一面使えなくなった言葉の倒木が転がっているというイメージなんです。含蓄のあるいい言葉なら、古くなって瀕死の状態であっても何とか救いたい、その一言だけでは耳で聞いて分からなくても、文脈によって分かる

スピアを読んで、英語に訳すよりは、みんながせりふ一つずつ読んでみることでだいぶ違いですよ。

松岡 全国高校演劇というのがありますが、あれはクラブ活動、演劇部という部活動なんですよね。ですから、正式なカリキュラムでなくとも、たとえばワークシヨップとかいうかたちでもいい、何とか一般生徒の授業に演劇を取り入れてもらいたい。

河合 亡くなられた如月小春さんが演劇のワークシヨップをよくやっておられたんです。

松岡 今、日本劇作家協会や、演出家協会のメンバーも、そういう活動にとっても積極的に取り組んでいます。

河合 劇を書くことは国語だし、演出もあるし、自分が俳優でやる。大道具、小道具は美術です。それに音楽をつけても構わないし。

松岡 私は演劇全体の中で、たまたま英米の演劇を日本語に直すという役でかわつていますが、それが私の居場所なんです。芝居をつくる場には、誰にでもその人の適性に応じて、必ず居場所があるんです。

河合 それはクラスでやってもそうです。松岡 みんなが主役をやりたいわけじゃないんですよ。書くことが好きだったり、物をつくるのが好きだったり、歌が上手だったり、それぞれの得意分野によって、それから性格によ

つて、居場所が見つかる。

河合 クラス全員で一つのことができるのに一番やりやすいものと思ってるんです。

松岡 私自身、自分の翻訳する力が例えば二とすると、優れた俳優とか、演出家とか、美術家の力と合わせると、それが累乗されるんですね。その喜びがいつたらないですね。

河合 これからもうちよつと変わっていくと思いますけどね。全国の高校生がすばらしい演劇をやってるんだしたら、もううちよつと新聞に取り上げてくれれば、だいぶみんなやる気が起ころうと思うんです。

松岡 自分たちがやる演劇と、子どもも大人も楽しめる演劇が出合うといいなと思う。

河合 親も子ども先生も入る劇をやってもいいしね。やっぱり先生方もやりたくなってきたて、入ってこられるそうですけどね。

松岡 子どもがお父さん役になって、子ども役になったお父さんにすこい勢いで叱ってみるとか。親の言葉遣いや、自分が親に反抗するときの言葉遣いを意識したり見直したりすることになるんじゃないか。それに「役」を演じるのは想像力を働かせることです。想像力を働かせ、自分とは違う人間を演じることで他者への理解や共感も生まれるはずですよ。

河合 それは大事なことでと思いますね。今おっしゃったようにいろんな演劇のやり方を使

だろうというような言葉を生かしたい。それも声に出して、みんなで読んだりしているうちになじんでくると思うんです。

河合 そうそう。体になじみますよね。

松岡 言葉の植林とか、植え直しのいうのを細々とすけれども、私は翻訳という仕事の中でやっていきたいと思っています。

文化芸術振興基本法が成立して

河合 「文化芸術振興基本法」が通ったんです。文化庁に言いたいとか、アイデアとがありますか。

松岡 実は劇場へのサポートが、ある意味で

劇団とか、制作団体への支援以上に大事かもしれないというふうに、東京グローブ座の休館のことで気づきましたね。

それから、河合さんもおっしゃった演劇を教育に取り込むということを考えていただきたいと思っています。

河合 私も演劇大好きですから。

松岡 そうですよ。河合さんが『十二夜』のマルヴォーリオで、私、ヴァイオラというのを、読むだけでもやりませんか。

河合 一遍ぜひやりましょう。

(了)

日韓文化交流

文化庁の抜穴 河合隼雄

今年は「日韓国民交流年」ということで、お互いの文化交流行事がいろいろとあつて嬉しい。五月八日には日韓の「宮廷音楽」の演奏会があつた。これはまったくはじめての試みで興味深かったが、日本の方が地味な感じがするのに対して、韓国の方は、はつとするような華やかさがある。同席していた韓国の文化院長の金鍾文さんは、これは日本の方が古式を守っているからですと言われる。そう言われるようになるほどと思う。

五月一二日は、ソウルで行われた「日本古美術

展」の開会式に参加、何しろ国宝一七件、重要文化財七二件、全体で一八九件という豪華なもので、韓国の人たちにも大いに喜んでいただいた。式後、韓国の美術館を見学したが、両国の作品は、よく似ていて、また異なるところがあり、興味が沸いてくる。そこで、日韓の同時代の美術工芸品を一室に展示するような展覧会を開けないものだろうかと思つた。韓国の方は、それは面白そうでやってみたいと言っておられたが。

◆長官対談◆

【文化人の本音】河合雄雄文化庁長官対談
東儀秀樹 雅楽師
【長官コラム文化庁の抜穴】

◆特集◆

世界へ羽ばたく新進芸術家
映画芸術の振興

【提言】

これからの新進芸術家の育成
河村潤子 芸術文化課長

【論文】

世界へ羽ばたく新進芸術家の今

【解説】

映画芸術の振興

【インタビュ】

女優・牧瀬里穂さんに聞く

編集後記

埋蔵文化財特集は、いかがだったでしょうか。紙面の都合上、遺跡の写真や図表などはあまり取り入れられなかったのが心残りですが、さまざまな出土品については、全国七か所で開催されます「発掘された日本列島二〇〇二」新発見考古速報展」まで足を運んでいただき、直接最新の発掘調査の成果をご覧いただければ！と思います。皆さまのご来場を心からお待ちしております。

◆連載◆
【ことばの探検】……………山口仲美 静岡大学教授
【インタビュ】未来の扉
吉田兄弟（津軽三味線奏者）
【いきいきミュージアム】美術館・博物館事業レポート
大阪府立近つ飛鳥博物館
【舞台の現場から】舞台を支える人たち
国立文楽劇場
【子どもたちから見た伝統的建造物群保存地区】
吉井町 筑後吉井・成羽町 吹屋
【日本の伝統美と技を守る人々】
梓製作・長谷川淳一
【在外研修だより】
在外研修員 森永明日夏・砂川幸子
【文化ボランティア通信】
◆文化庁ニュース◆
文化財の新指定（美術工芸品関係②）
東近代増改築後の新しいサービスについて
放送大学募集要項
美しい日本語のすすめ

のです。しかし、埋蔵文化財というものはどのようなものか、といった実態についてはあまり詳しく知られていないのが現状ではないでしょうか（知らないのは私だけかも）。
とにもかくにも、今回の特集記事や、「発掘された日本列島二〇〇二」新発見考古速報展」が、埋蔵文化財に対する認識や関心を深めていただくにあたって少しでもお役に立っていただきたいと念願しております。（あ）

文化庁月報 6月号（通巻405）

平成14年6月25日印刷・発行

編集——文化庁

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

発行——株式会社 ぎょうせい

本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12
本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16
電話 編集 03 (3571) 2126
販売 03 (5349) 6666
URL : http://www.gyosei.co.jp

印刷所——ぎょうせいデジタル株式会社

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円 [本誌514円] 送料76円
年間購読料6,480円

本誌のご購読の申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先
(株) ぎょうせい 営業部 広告課
電話03 (5349) 6657 (ダイヤルイン)
©2002 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文用紙再生紙を使用しております。

文化庁では、ホームページで、文化庁に関する情報を幅広く提供しています。ご意見、文化庁月報の感想などを、ホームページのご意見欄へお寄せください。

●ホームページアドレス●
http://www.bunka.go.jp